

Minuma Shun Sai

見沼・旬彩

2022年秋号 vol.21

見沼たんぼ地域のあちこちに咲く『^{まんじゆしゃげ}曼殊沙華』

『彼岸花』という名称でも親しまれていますが、地球温暖化の影響で、彼岸の時期より少し遅れて開花期を迎えることが多くなっています。特に、この地域で『曼殊沙華』が多いのが、加田屋新田の見沼代用水東縁の土手です。

植栽の由来

1988年に発足した見沼たんぼ地域の総合的な環境保全団体「見沼たんぼ保全市民連絡会」。そのメンバーとして参加されていた見沼区大谷在住の「鶴巻さん（愛称・花咲かじいさん）」が、『大谷地区の農家の裏山が伐採され、彼岸花の球根を大量にもらえることになったので、代用水東縁の土手に2～3球ずつ植えたい。』というお話があり、お一人で根気よく植えられていました。以来34年、いまでは代用水東縁の土手沿いが真っ赤な花の帯となっています。



市民の森・見沼グリーンセンター

さいたま市 市民の森の中にあります。見沼たんぼの北部に位置し、市民の森の敷地は東側を芝川に、西側を見沼代用水西縁に隣接した面積約14万平方メートルの緑豊かな施設です。中央に広大な芝生広場が広がり、周囲を植栽で囲み健康歩道、林間テラス、展示温室（葉野菜）、リスの家（シマリス約200匹）、市民農園（143区画）、指導農場、バラ園（50種、400本）、盆栽園（約400鉢、約40種・松他）、管理棟（会議室）などがあります。これらを活用し、農業祭（約11万人参加）、花と緑の祭典等の大きな農業振興イベントや、展示会も開催されます。また、週末には野菜の直売所などもあり、市民の憩いの場所となっています。また、市民農園（全体面積12,000㎡）があり農業とふれあうこともできます。指導農場では、本市の農業振興を目的に野菜や果樹の試験栽培やスマート農業の推進に取り組んでいます。

染谷農産物直売所

片柳コミュニティセンター敷地内の施設を利用し、毎週土日に営業している染谷農産物直売所は、地域の農家10軒で運営されています。

斎藤英子副会長からは、豊富な品揃えの中から、本日のおすすめ品である季節の野菜のほか夕顔・梨・ブルーベリー等の説明を頂きました。
鮮度・値段・季節野菜など素人目にも大変魅力的なものが陳列されています。

また近くに市営霊園があり陳列されている切り花は、開店小一時間で売り切れになるなど、その盛況ぶりが窺えます。

秋の炊き込みご飯



茶豆の酢飯ご飯

旬の茶豆を夏の初めの出盛りに、甘酢に漬けた新生姜、青じそと合

わせて、炊き立てのご飯に混ぜ合わせ、あおぎ冷まして、簡単な酢飯ご飯を作りました。

茶豆は砕いていますので、90歳過ぎの母も香りをたのしんでいました。生姜甘酢漬けに酢、塩を適量追加して調整します。2合炊きご飯に合わせ、酢は60ml前後で。

見沼グリーンセンターは、機能回復および向上を図るため改修工事を実施します。改修予定令和4年11月～令和5年8月まで休館
詳細：
https://www.city.saitama.jp/004/001/003/001/p000088_d/file/siminnomori.pdf



北区見沼2-94 TEL.048-664-5915
FAX.048-651-0962

JR宇都宮線 土呂駅下車 徒歩約7分
東武アーバンパークライン 大宮公園駅及
び大和田駅下車 徒歩約20分
駐車場:約300台



▲三瀬公一所長



見沼区染谷3-147-1
(片柳コミュニティセンター内)

会長:鈴木孝雄
TEL.080-4802-5347

9:00 ~ 17:00

営業日時:土・日

9:15 ~ 16:00 商品がなくなり次第終了

扱い商品:季節の野菜・果物・卵・漬物・切り花・その他加工食品



さいたま市農業祭

2022年11月19日(土)・20日(日) 9:00 ~ 15:00※雨天決行
市民の森・見沼グリーンセンター(北区見沼)

主催:さいたま市農業祭実行委員会、事務局

さいたま市経済局農業政策部農業政策課内

JR宇都宮線 土呂駅・徒歩7分、東武アーバンパークライン 大和田駅・徒歩15分

さいたま市の秋の大収穫祭として、市内農業生産者、市民・消費者の交流の場、また地産地消の推進を目的に2日間、開催されます。

さいたま市内の農業者による野菜・果物・花き・植木・農産物加工品の直売や餅つきなどのイベント、友好都市の特産品直売、多彩な出店及びショーなどがあり大人から子供まで家族連れで楽しめるイベントです。さいたま市内の農業関係のイベントでは、最大規模のお祭りです。(入場者数:過去の実績約11万人)



みぬま秋フェス2022
in さぎ山

2022年11月5日(土)・6日(日)
10:00 ~ 15:00

**さぎ山記念公園・さぎ山記念館
入場無料**

主催:見沼さぎ山交流ひろば(事務局:さいたま市見沼田圃政策課)

プログラムの詳細は、決まり次第、さいたま市の見沼たんぼのホームページでご案内します。（「コロナウィルス感染拡大防止対策」に配慮しつつ開催します。）



見沼のお店紹介!

こもれび食堂+

プラス

カラリとドアを開けると、店内は白壁に木製のテーブルと椅子、大きな窓から木の葉を透かして差し込む日の光。こもれびの中にあるような穏やかな心地よさを感じます。

「からだにいいは、おいしい」をコンセプトに、奇をてらうことなく、馴染み深い食材を使って、でもちょっとだけ意外な驚きをプラスして楽しんでもらえたら、と店主の中林公人さん。厨房を担当するのは管理栄養士で妻の敏子さん。

メニューは、旬の食材をバランスよく取り入れた週替わりの一汁五菜「こもれびプラスプレート」と「小豆」といろいろ野菜の味わいカレー」の他、豆腐クリームを添えた抹茶シフォンケーキやカボチャのチーズケーキなどのおやつ、コーヒー、紅茶からワイン、ビールまで15種類ほどの豊富なドリンクがあります。店内の雰囲気にも、お料理の一品一品にも、店主ご夫妻のさりげない心遣いが感じられ、心休まるひと時を過ごせます。テイクアウトもできます。

また、ここでは安心できる食材を使いたいと、見沼で無農薬で野菜を栽培している館野菜園の野菜を使用しています。そして毎週、畑まで直接仕入れに行くといひ、お願いして同行させていただきました。



▲店入り口



▲こもれびプラスプレート
(黒豆ごはん、汁物付 1,300円)

浦和区仲町2-16-15 ATビル1F (コバルト画房の隣)
TEL.FAX.048-789-6834
営業時間:11:15 ~ 15:30 (L.O.15:00)、
17:30 ~ 19:30 (L.O.19:00)
定休日:月曜・第3火曜 <http://komorebi-plus.com>

「館野菜園」館野幸雄さん

こもれび食堂+の中林さんと畑を訪れたのは8月の酷暑の時期。館野幸雄さんの畑は、浦和西高校の裏を流れる見沼代用水西縁の近く、浦和区三崎にありました。

田舎で生活してみたいと思っていたという館野さん。64歳で退職してから、群馬県の甘楽町が行っていた農業研修に参加。5年間、さいたま市の自宅から車で2時間半かけて甘楽町に通い、有機栽培を学びました。ちょうどその頃、見沼の畑を借りられたことで、移住ではなく見沼で農業三昧の日々を送ることになったそうです。

畑にはトマト、ナス、キュウリ、モロヘイヤ、カボチャ、オクラ、ピーマン、ゴーヤ、アスパラ等々、夏野菜が満載!そして照りつける太陽にも負けないくらいの、畑を案内してくれる館野さんの楽しそうな笑顔。畑からキッチンへ、そして胃袋まで。こんな



◀館野幸雄さん(左)と、こもれび食堂+の店長中林公人さん

ふうに繋がっているのだなあ、と実感しました。

館野さんは南区鹿手袋の「ヘルシーカフェのら」にも野菜を提供しています。また、見沼で長く活動している市民団体「見沼たんぽを青少年とともに学び楽しむ会」の農園長さんとしても活躍されています。

白子果樹園の白子敏輝さん

敏輝さんで5代目という白子家、百年以上続く果樹農家です。現在、祖父・父とご本人の3世代家族で切り盛りし、生産した梨やブドウ全てを果樹園前の直売所で販売しています。

子供の頃から直売所で遊び、販売の手伝いもしていたので、常連さんとも顔なじみ。直売所を毎年訪れる常連との会話が元気の源と言います。

直売所の裏に3世代の自宅、その周りに広がる梨やブドウの棚を丁寧に見守りますが、最近の異常気象には気が抜けません。袋掛けしたブドウ房一つ一つにも目が離せず、夏の繁忙期には休みが取り辛いとのこと。しかし励みになるのは常連さんの存在、「果実それぞれの旬には、ぜひ直売所に足を運んで下さい」と楽しく語っています。

見沼区山240 (さいたま市立病院前を北上、北宿大橋を越え南台バス停を過ぎて間もなく、西山通り沿いの右手に見えるノボリとブドウ棚が目印です) TEL.048-684-2326
ブドウ:8月中旬～9月下旬 / 梨(幸水、豊水、新高):8月中旬～10月上旬 / キウイ:11月下旬～12月上旬 / ブルーベリー:6月上旬～8月上旬



◀白子敏輝さん

▲直売所風景

さいたま市園芸植物園

園芸植物園は約35,000㎡の敷地内に、花き展示温室・椿エリア・ばらエリア・山野木エリア・あじさい通りなど9つにゾーニングされ、四季折々の植物との出会いが楽しめます。

この冊子が発行される9月・10月は、ジンジャー、モクセイ、ススキ、サザンカ、ツツブキが、そして温室ではカカオ、洋ランなどが楽しめます。

また園内や近隣の樹木の紅葉も始まるなど、心休まる秋のひと時をご家族づれでお楽しみ下さい。



緑区大字大崎3156-1
TEL.048-878-2026
開園時間:9:00 ~ 16:00
休園日:月曜日(祝祭日はその翌日) / 12/29 ~ 1/3
入園料:無料



JAさいたま尾間木ぐるめ米ランド

地産池消の推進と新鮮な地元農産物の販売

尾間木ぐるめ米ランドは、地産池消の推進と新鮮な地元農産物の販売を行い、消費者に農業への理解を深めることを目的に、6年前の平成28年にリニューアルオープンしました。

秋は見沼田んぼを中心に栽培されたサトイモなどがイチ押し

店内には地元農家が手塩に掛けて栽培した新鮮な旬の農産物が並んでいます。中でも、管内の見沼田んぼを中心に栽培されたサトイモやハツ頭などのイモ類がイチ押しです!

店頭精米で、つきたてのお米を

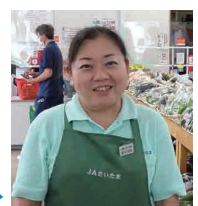
店頭精米も行っており、つきたてのお米が食べ



られると、お客様から大変喜ばれています。

緑区東浦和9-5-12
TEL.048-873-2006
営業時間:10:00 ~ 16:00
定休日:土・日・祝日・年末年始

新井克枝所長さん▶



MINUMA New Face 山崎農園の園主 山崎奈生人さん

大学(経営学)卒業後、広告代理店に勤めたが、実績が成果に結びつき且つ興味のあった農業関係の仕事として2016年「オーガニックハーベスト丸山」さんに就きました。2021年7月農産物の生産、荷造り、配達等一通りの経験を積んだので、独立しました。国、自治体の就農支援を受けながら地域の中核となる様に頑張っています。現在、4ヶ所の農地を借り生産をしています。緑区三浦(3ヶ所)、大宮区寿能町(1ヶ所)の計7反。

主な作物は、ナス、オクラ、ミニトマト、ゴウヤ、ネギ、ニンジン、ハクサイ、ブロッコリー、サ



ニレタス、長ネギ等です。将来、一ヶ所にまとめ拡大を図りたいとのことです。 緑区三浦312

ノブヒロ園芸の守屋喜広さん

「父が病気で農家を止めることになったタイミングで、サラリーマンから農家に転身しました」という守屋さん。農業は全くの素人だったため、農業大学校に通った後、栃木のシクラメン農家で研修し、



▲ハウス前の看板と守屋喜広さん



▲昨年直売時のシクラメン

ご両親の遺志を継ぐ形で、シクラメンを中心に他の季節はラベンダー、タイム、ビオラ等花壇に植える花の生産・発売をしています。

シクラメンは11月に種まきし、3回の植替え後に、翌11月中旬から12月には店頭直売しています。他に鴻巣・加須・都内の生花市場にも出荷しています。そして冬場以外は、花壇用を中心に20種ほどの花を育て試しながら、上記市場への出荷が中心となります。

現在、忙しい農作業の傍ら、市内の30代前半までの若い農業者の集まりである「4Hクラブ*注」の会長を務めています。「会社員と比べ農家は孤独・孤立になりがち。同僚・仲間感覚で気軽に悩みを相談したり、横のつながりを大事にしたい」と、市の農業祭・マルシェへの参加や地域の子供たち対象のさつま芋堀等にもクラブとして活発な活動を行っています。

*注: 4HクラブとはHEAD(頭脳)、HAND(技術)、HEART(心)、HEALTH(健康)を目標に、30代前半までの若い農業者が中心となり組織、農業経営をしていく上での身近な課題を検討解決していく農業青年クラブ。消費者や他のクラブとの交流、地域ボランティア活動を行い、全国に約850支部、1.3万人以上が在籍。

見沼区片柳1-135(見沼代用水を作った井沢弥惣兵衛為永の顕彰碑がある萬年寺の隣です)

TEL.080-3214-4838

営業日時:9:00 ~ 17:00 11月中旬から12月末はシクラメン直売が中心

講演会

人と環境にやさしい農業講演会について

見沼地域の環境保全対策の講演会「生物多様性基本法」開催のお知らせ

市民団体による「染谷フクロウの森保全運動」等に見られるように、見沼たんぼ地域の周囲の環境は危機に瀕しています。

見沼たんぼ地域の環境保全対策のもととなる「生物多様性基本法」について講演会を開催します。

生物多様性基本法(平成20年法律第58号)は、日本の生物多様性政策の根幹を定める基本法であり、2008年6月6日に公布された環境基本法の下位法に位置付けられるとともに、生物多様性の保全および持続可能な利用に関する個別法に対しては、上位法としての役割をもつ基本法です。

魅力ある見沼の田園空間としての再生、地域の活性化のためには、さらなる積極的な活用の取組が必要です。

是非、ご出席をお願いします。

期日:9月29日(木) 15:15

場所:七里公民館大会議室

テーマ:見沼地域の環境保全対策のもととなる「生物多様性基本法」について

講師:埼玉県生態系保護協会・理事 浦和支部長 峰島敬治氏

参加費:500円

申込み・連絡先:黒澤

メール kurosawa@peach.ocn.ne.jp

市民プロジェクト『見沼田圃生物多様性プロジェクト』について

①生物多様性とは

生物多様性(せいぶつたようせい、英語:biodiversity)は、生物に関する多様性を示す概念で、生態系、生物群系または地球全体に、多様な生物が存在していることを示します。生態系の多様性、種多様性、遺伝的多様性(遺伝子の多様性、種内の多様性とも言う)から構成されます。生物多様性の定義には様々なものがありますが、生物の多様性に関する条約(1993年5月28日締結)では「すべての生物(陸上生態系、海洋その他の水生生態系、これらが複合した生態系その他生息又は生育の場のいかなを問わない。)の間の変異性をいうものとし、種内の多様性、種間の多様性及び生態系の多様性を含む」と定義されています。(外務省、環境省)

②見沼アクションプラン「見沼田圃生物多様性プロジェクト」

・概要

さいたま市の大規模緑地空間である見沼田圃において、自然共生社会の実現を目指し、市民団体や専門企業と連携して、見沼田圃における生物多様性の研究、検討を行います。

・5年後の姿

見沼田圃における生物多様性の保全、再生に関する取り組みや、生態系と共存・共生する適切な土地利用などの枠組みを構築します。

・活動内容

○見沼田圃における生物多様性の研究、検討、○取組成果に関する発表・意見交換、○見沼田圃ホームページなどによる情報発信、○生物多様性の保全、再生に関する取り組みや、生態系と共存・共生する適切な土地利用などの枠組みの検討構築

・期待される効果

○見沼田圃の自然環境の保全、○市民活動の推進、参加者の拡大、○地域間交流の促進、○見沼田圃の情報発信

・関係課・関連企業

○見沼田圃政策推進課、○環境創造政策課、○環境対策課、○さいたま市のゼロカーボンシティ実現に向けた共創推進に関する連携協定企業(さいたま市見沼田圃基本計画より)

ガイドツアー ガイドと歩く、 曼珠沙華咲く見沼たんぼと 旬の自家野菜ランチ



見沼たんぼ地域のあちらこちらに咲く「曼珠沙華」。特に、花が多いのが、加田屋新田地区の見沼代用水東縁の土手です。

「曼珠沙華の花」を愛でて、秋の見沼の自然を散策し、地元の農家レストランで、自家野菜ランチを食べるツアーを3日間連続ツアーとして企画しました。

主催・催行:見沼たんぼ地域ガイドクラブ

協賛:農家レストラン「射光どっと」

企画・協力:埼玉高速鉄道(株)

日程:9/29(木)、9/30(金)、10/1(土)

参加費:ガイド料300円+昼食1,200円(予定)+路線バス運賃

歩行距離:3km 歩行時間1時間30分程度

募集人員:各回10名程度

ご案内コース:浦和美園駅改札口前9:30集合(土曜は9:00集合)

浦和美園駅西口バス停9:48or9:12(土曜)⇒10:00三崎台バス停⇒10:40旧坂東家住宅⇒山下橋⇒加田屋新田見沼代用水東縁の「曼珠沙華」見学⇒11:10見沼自然公園⇒11:30深井家長屋門⇒11:50射光どっと(農家レストランでの昼食)⇒帰途・昼食後、浦和美園駅西口行12:35、大宮駅東口行13:00代山バス停⇒浦和美園駅or大宮駅東口

参加申込:見沼たんぼ地域ガイドクラブ

minuma-guide-club.com

代表ガイド窓口・北原メールアドレス

minuma.farm.kitasaku@ever.ocn.ne.jp

TEL.090-2675-1684 FAX.048-834-5731

今号に掲載された、見沼たんぼ地域のお米・野菜・果物・花木 直売所等マップ



市民が応援する見沼たんぼ地域での人と環境にやさしい都市農業の広報誌
「見沼・旬彩」2022年 秋号 vol.21

発行：未来遺産・見沼たんぼプロジェクト推進委員会

<http://minuma-miraiisan.jp> e-mail: minuma@minuma-miraiisan.jp

バックナンバーはホームページよりご覧になれます。

編集：見沼農業・応援連携部会／デザイン・印刷：有限会社アームズ

発行日：2022年9月5日



We
Love
Minuma

この見沼農業の応援連携・季刊誌「見沼・旬彩」は、公益財団法人 サイサン環境保全基金様、公益信託 武蔵野銀行みどりの基金様、からの助成金で印刷・発行しております。